

もっと安心 もっと住みやすい これからの国立富士見台団地のために

団地まちづくり通信

第6号

2026 (令和8年) 1.30



発行：国立市 富士見台地域まちづくり担当

協力：国立富士見台団地自治会・UR都市機構

令和7年11月4日(火)、11月5日(水)、国立富士見台団地では、暮らしの質を向上させるため、「国立富士見台団地の再生(建替え)を考える座談会」を開催しました。各回の意見交換したテーマは、第3回では「第1団地の地域活動拠点のあり方」について、第4回では「重点エリアの新たな骨格空間のイメージ」について、UR都市機構が考える将来イメージ案が示され、意見交換を行いました。詳細については、P2以降をご覧ください。

また、座談会への参加のしやすさに関するご意見をいただき、次回の座談会は平日の午後で開催します。次回の座談会のお申込み方法などはP6をご覧ください。

今後も団地の将来について、お住まいの皆様と丁寧に情報共有を図り、ご意見をお伺いする場を継続して設けていく予定です。

団地の将来像の検討に向けて

座談会の中で、UR都市機構が大切にしている「ゆるやかに、くらしつながら。」という企業理念(ブランドアイデンティティ)(図1参照)の説明がありました。UR都市機構は、屋外空間を団地での暮らしの大きな価値として捉え、「ゆるやかなつながりを生み出す屋外空間をつくることは、団地での豊かな暮らしをつくりあげることにつながる」と考えています。

今年度(令和7年度)の座談会にて、第1団地では「既存の並木や広場」「地域活動拠点」について、第2・第3団地では「重点エリアの新たな骨格空間」について、お住まいの皆様と意見交換を実施してきました。

頂いたご意見を踏まえ、UR都市機構で「屋外空間(広場・歩行者空間等)」の検討を進めていき、その後住棟配置や住戸プランを検討する予定です。

UR都市機構の団地設計の進め方の考えについては、図2をご覧ください。

【図1】UR都市機構の企業理念(ブランドアイデンティティ)

ゆるやかに、くらしつながら。

UR賃貸住宅は、1955年に歩みを始めてから今日まで、公的機関としての使命のもと、いつの時代もその時代の社会課題に対して、人々が安心して暮らせる住まいのあり方を提案してきました。

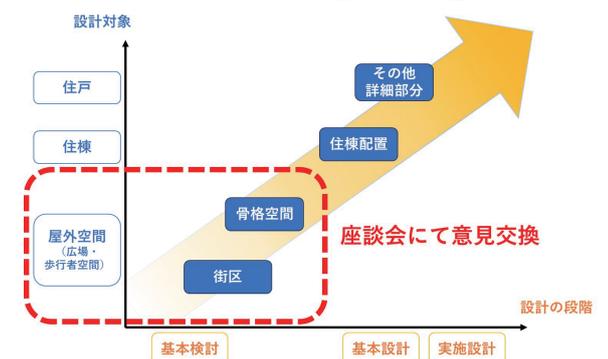
いま、時代は少子高齢化や地域社会の活性化、ライフスタイルの多様化への対応など、さまざまな課題を抱えています。これらを乗り越えていくために、わたしたちは考えることをやめません。

団地にひろがる緑豊かな空間の新しい活用方法はないだろうか。人が集まって暮らすことを、もっと大きなチカラに変えられないだろうか。多様な人々がみな笑顔になれる、くらしづくりができないだろうか。地域とともに、新しいまちづくりができないだろうか。

ゆるやかなつながりの中で、だれもが安心して、自分らしく毎日過ごせる居場所となるように。そして、そんなくらしが未来へとつながるように。わたしたちは住む人に寄り添いながら、常にその時代にふさわしいくらしを考え、提案し、実現していきます。

団地にひろがる緑豊かな空間の新しい活用方法はないだろうか。人が集まって暮らすことを、もっと大きなチカラに変えられないだろうか。多様な人々がみな笑顔になれる、くらしづくりができないだろうか。地域とともに、新しいまちづくりにできないだろうか。

【図2】UR都市機構の団地設計の進め方の考え



第1団地「地域活動拠点のあり方」に関する意見交換

開催概要

- 開催日時：令和7年11月4日（火）午後7:00～午後9:00
- 開催場所：国立富士見台第1団地 集会所1-1
- 参加人数：10人
- テーマ：第1団地の地域活動拠点のあり方を語り合おう！

URが考える広場の将来イメージについて

今よりも**広く自由に使える**平場を！

- ・平場を広く、ステージとしても活用
（作り方は要検討 / 組立式や段差活用など）
- ・子どもたちが座りやすい場所に



ご意見

- ・既存のステージは普段からよくベンチとして活用されている。もっと大きくてもよいかもしい
- ・イベントの時は、むしろ座る場所が足りなくなる。座る場所の充実を
- ・場合によってステージの大きさが変わるとよい

広場に**みどり**を増やしたい！

- ・木陰のできる樹木
＋一部を人工芝に
（若者が憩う、ヨガ
などもできる）



ご意見

- ・たまたご広場にはもう少し樹木があってもよい
- ・人工芝はマイクロプラスチックで海洋汚染につながる。天然芝がよい
- ・噴水など動きのある水があると、夏に人が集まるが、お祭りの時には邪魔になりそう
- ・散歩途中で憩える場所が欲しい

普段から使いたくなる広場に！

- ・移動式のイスや机を
設置する
- ・店舗を広場に向ける
- ・トイレを設置？



ご意見

- ・広場にもっとベンチ・縁台など、人の溜まれる場所が欲しい
- ・人の通る道に沿って、もっとベンチがあるとよい
- ・もっと広場と店舗が連続的・一体的になるとよい
- ・ベンチがあると広場と店舗が連続的に使われるのでは
- ・人の集まる広場には水栓があるとよい

全体にかかるとご意見

[たまたご広場・全体的に]

●団地の核、シンボルとなる広場

- ・団地の中心的な広場、団地夏祭りをはじめ、ビアガーデンなど地域のイベントも数多く開催される

●今の大きさ・雰囲気を継承したい

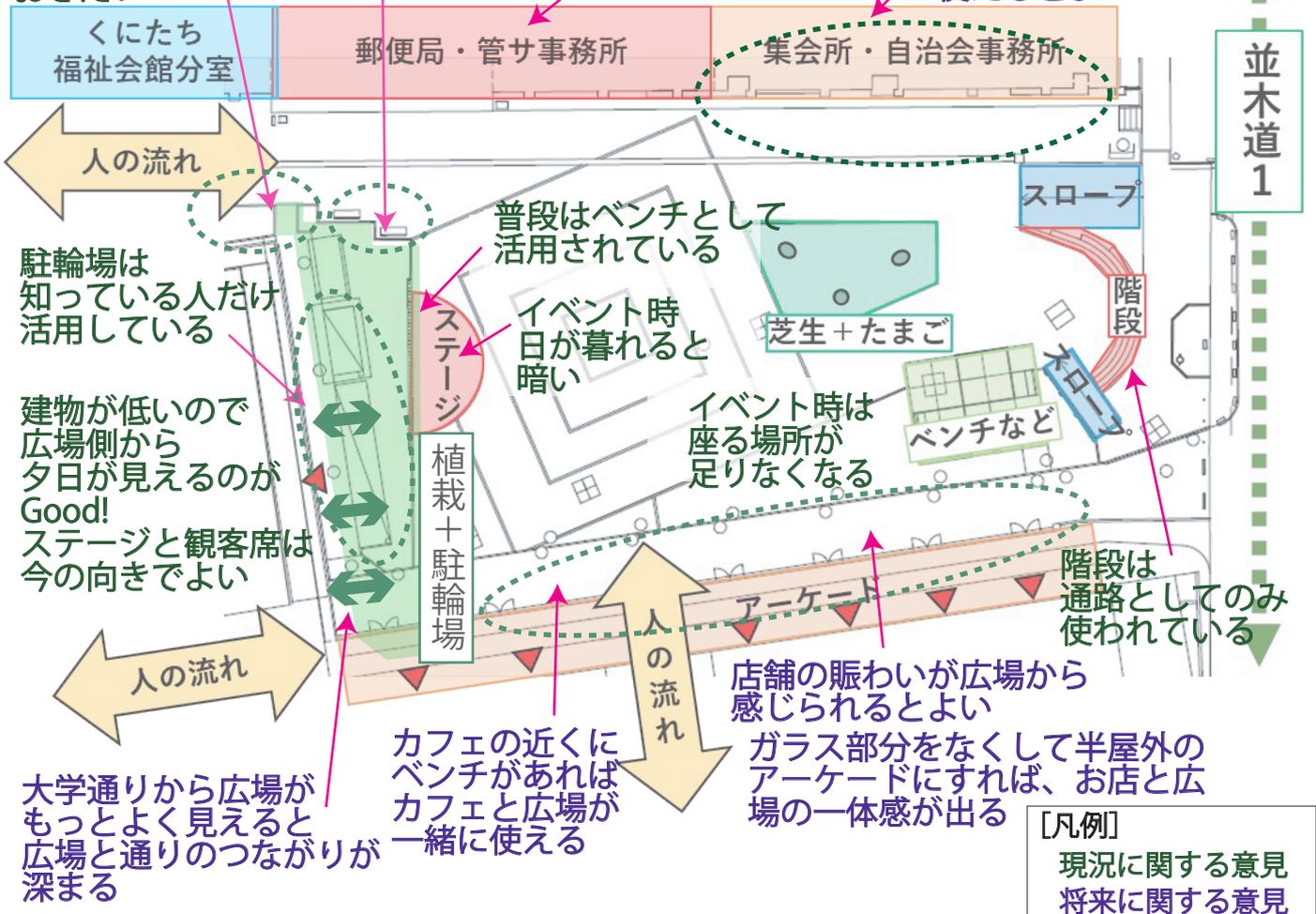
- ・現在の大きさは夏祭り開催にちょうどよいサイズ、この規模感を継承したい
- ・建物配置が完全に並行でなく、奥に向かって狭くなっているところがよい
→完全に並行だと固い空間になると思う

入口の植栽管理が不十分
人通りも多く
団地の顔なので
キレイにして
おきたい

ベンチで
話している
人の声が響く

郵便局・ATMには
人が集まる

集会所と広場が
もっと一体的に
使えるとよい



[広場の賑わい、地域に開くことについて]

● 広場が賑わうことはよい

- ・ 商店街やバス停に近いからこそ、学生さんや商店会など様々な人に使われる賑やかな広場でありたい
- イベントで子どもたちの声が聞こえると嬉しい
- お祭りなどのイベントでは、多くの方々と交流できる

● 広場の騒音には対策をしてほしい

- ・ 騒音が大変つらい人もいて、広場でのイベントや、居住者以外の利用を促すことよりも、閑静な住宅地の環境を保つという考え方もあると思う
- ・ 広場に面した住宅への騒音対策はしてほしい
- ・ 基本的な使用ルールや広場に面した住宅への配慮・マナーが必要では

[緑や憩いの場、ベンチなど]

● 高齢者にはベンチが役立っている

- ・ 高齢者には、普段の動線上に一息つけるベンチがあることが大変ありがたい
- 休憩だけでなく、人と出会ってさりげなく交流できる場所はとても重要

● 植栽やベンチの管理をしっかりしてほしい

- ・ ベンチも植栽も、きちんと管理をしてキレイな状態を維持してほしい
- ゴミの散乱した芝生や汚れていて座れないベンチがないようにしてほしい

全体にかかるご意見

開催概要

- 開催日時：令和7年11月5日（水）午後7:00～午後9:00
- 開催場所：国立富士見台第3団地 集会所3-2
- 参加人数：11人
- テーマ：重点エリアの新たな骨格空間のイメージを具体化しよう！

URが考える緑・樹種のイメージ

緑・樹種



- ・季節の色どりと国立らしさが感じられる風景を作りたい！
- ・春は華やかに、夏は木陰、秋は鮮やかな色彩、冬は暖かな日差し
- ・大きな既存樹木は、団地の魅力として、建替え後も極力継承することを検討

ご意見

- ・新しい地域動線でもケヤキを活かしたい
- ・調整池周りの樹林は保存したい
→武蔵野の原風景を感じる空間にしたい
- ・落ち葉の少ない常緑樹がよいのでは
→落ち葉を踏んで歩くのも風情がある
- ・春を感じるサクラは、皆が好きな樹木
- ・イチヨウ、モミジ、ハナミズキは緑も紅葉もキレイでよい
- ・梅や金木犀、沈丁花など香る樹木は歩く楽しみになる
- ・黄色の綺麗なミモザ、懐かしいニセアカシアなど特徴のある樹木もよい
- ・ケヤキは成長が早く、日陰の影響で洗濯物が乾きにくいという苦情もある
- ・実のなる木は子どもは喜ぶが、管理上の課題もある

URが考える照明のイメージ

照明

- ・歩いて、見て楽しい光の演出を作りたい！
- ・生活動線（住棟入口への道など）の住環境を重視した照明に対し、楽しさを演出する照明に



ご意見

- ・明るく安全で、住宅地に適した照明であること
- ・黄色っぽい、暖かみや安らぎを感じられる光がよい
- ・低い庭園灯の設置で、夜の団地景観がとてよくなった
- ・上の階の人が眩しくないよう下の路面を照らす
- ・照明があると進行方向に誘導され、地域動線としてよい
- ・明るい照明があると夜中にジョギングをする人が増え、足音などが響くなどの不安もある
- ・深夜は照度が落ちるようにする
- ・明るさも重要だが、共益費が高くなるのは困る
- ・サクラや紅葉の時期はライトアップするなど、季節によってかえられるとよい

沿道用途

- ・①住宅 ②非住宅（お店・集会所など）の2パターン
- ・住宅の場合はプライバシー確保が必要、お店や集会所の場合は通りに賑わいを滲み出す



植栽で視線を遮る 大きな開口をつくる テラスの賑わい ひさしによる演出

ご意見

- ・距離があっても視線は気になる。目隠しとなる生垣などがあるとよい
- ・住棟前に花壇があると、綺麗だし会話も生まれる
→花壇は水場と一緒にポケットパークに設置してはどうか
- ・独立棟の集会所がよい
→周りの屋外を使いやすく、騒音の心配も少ない
- ・集会所のデザインが重要
- ・集会所の深い庇や開放的な窓はとともよい
- ・中の様子が伺える大きな窓はよい
- ・日陰の役割も兼ねる深い庇はよい
- ・ウッドデッキはスケボーの練習場になる懸念も
- ・気軽に入れる飲食店があるとよい
→集会所にカフェが併設できるとよい
→キッチンカーが出店できる場所もあるとよい

● 地域動線のイメージ～経路/ルート

- ・矢川方面から市役所に向かう道ができるとよい
- ・市役所の場所が決まるとイメージが湧きやすい
- ・通りにくい場所の改善と合わせ、一体的な地域動線ができればよい
- ・調整池から第3団地・第2団地を直線的に抜ける道ができるとわかりやすい
- ・団地の中を外の人が通るのをあまり見かけないため、イメージが持ちづらい

● 地域動線の雰囲気

- ・ヒマラヤスギの深い緑を、団地の象徴として活かしたい
- ・地域動線は、安全面・機能面を踏まえた舗装の仕上げがよい

● 調整池と水の導入

- ・調整池周辺は地域動線の入口・顔であり、珍しい植生もある。この環境を活かしたい
- ・もう一度雨水をため、防災などにも活用してはどうか
- ・ポケットパークに井戸水で小さな水場ができるとよい。防災用にもなる
- ・水の流れが第2団地までつながればよい

● 団地を地域に開くマイナス面を、しっかり考えておくべき

- ・騒音やマナーなどへの対策が必要
- ・地域動線に設置する照明の費用は、誰がどう負担するのか整理が必要

● 「そこで暮らす人」の意見をしっかり聞いてほしい

- ・第2団地は第2団地、第3団地は第3団地の意見を尊重してほしい

● 現状の問題点、改善が必要な点をしっかり把握してほしい

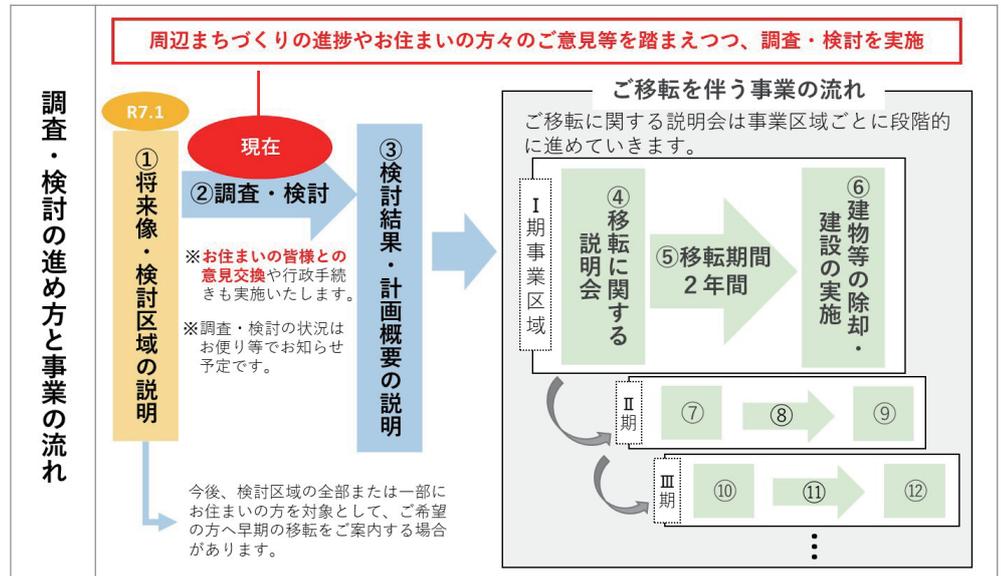
- ・微妙な傾斜は高齢者にとって非常に危険、改善してほしい
- ・大きな水溜まりができる場所があり、非常に困っている

事業に向けた調査・検討の進め方と事業の流れについて

今年度（令和7年度）の座談会は、下図の「②調査・検討」の段階にあたります。建替え後の家賃、減額措置や具体的な引越し時期など暮らしに関わる説明は、「②調査・検討」・「③検討結果・計画概要の説明」を経て、「④移転に関する説明会」にて説明されるとの話がありました。

UR都市機構は、今年度実施している「国立富士見台団地の再生（建替え）を考える座談会」と並行して、土質調査や測量といった基礎調査から、住環境の検討、行政協議等を進めています。具体的な計画や事業時期が決まり次第、「③検討結果・計画概要の説明」にて、お住まいの皆様にご説明の場が設けられる予定です。

説明会資料 抜粋



次回座談会の申し込み方法

下記の「お問い合わせ」にお電話、または右のQRコードを読み取り、入力フォームにて、**2月11日（水）**までにお申し込みください。
（会場の都合上、事前申し込みにご協力下さい。）



申し込み QR コード

第5回 座談会

（第2・第3団地）

日時：2月16日（月） 午後2:00～午後4:00頃

場所：国立富士見台第3団地 集会所3-2

テーマ：重点エリアの新たな骨格空間のイメージを具体化しよう！

第6回 座談会

（第1団地）

日時：2月17日（火） 午後2:00～午後4:00頃

場所：国立富士見台第1団地 集会所1-1

テーマ：第1団地の通り沿いにおける団地側のつくりかたを話し合おう！

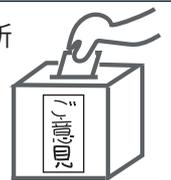
「座談会に出席したいけれども、都合がつかない」などの声を受け、書面にてご意見をお寄せいただけるよう、座談会の開催に合わせ「ご意見箱」を設置しています。

お住まいの号棟・部屋番号、お名前を記載上、ご投函ください。（書式は自由/メールでもOK）

いただいたご意見は、座談会・団地まちづくり通信のなかで公開・共有化を図ってまいります。

※ご質問等にお答えする主旨のものではありません。

設置場所：管理サービス事務所
（第1・第3団地）



※座談会開催日の前後一週間を予定しています。

メール：国立市 富士見台地域まちづくり担当
sec_fuji@city.kunitachi.lg.jp

お問い合わせ

座談会の運営に関するお問い合わせ 国立市 富士見台まちづくり担当（布施・三澤）

042-576-2111 内線 383

団地に関するお問い合わせ UR 都市機構 ストック再生企画部 042-595-9478